

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	〒059-1265 苫小牧市字樽前2 2 2番地1 1 (電 話) 0144-61-7788		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	10月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10人	常勤	7人,	非常勤 3人, 常勤換算 7.97人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~37,200 円	その他の経費(月額)	15,000~15,500 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	380 円	昼食 470 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.44歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道央佐藤病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、社会福祉法人緑陽会を母体とし、広大な敷地内には、林や川があり、四季を感じながら生活できる環境である。また、母体施設の機能を最大限利用して、各種行事への参加や、医療施設からの定期的及び急変時の往診等を受けており、利用者の楽しさと、健康面での安心につながっている。重度の利用者への見守りも丁寧に行っており、1ユニットの利点が活かされている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流については、なお一層の努力を期待したい。また、ターミナルケアの指針については、文書化されており、現実の対応も丁寧に行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	利用者の重度化が進む中、特にターミナルケアについての取り組みを重視している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の内容は、感染症の研修から成年後見制度と多岐にわたっている。その報告を受けてスタッフ会議で検討を加え、実践に結びつくよう体制強化に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の満足度は大変高く、来所時の声かけや、話しやすい雰囲気作りに配慮している。表出された意向は、速やかに実行に移すよう検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校や保育園の行事に積極的に参加し、地域に溶け込むよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念を共有する同じ棟内の特別養護老人ホームとの協力体制を密にし、事業所の開設時に職員全員で作上げた理念「地域の一員として暮らす」ための具現化に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議での確認とともに、職員は常に理念を意識しながら利用者と接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区住民が多く関わる小学校や幼稚園の行事に参加し、地域との交流に努めている。行事では、事業所から「蕎麦打ち」の紹介等もして交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組んでいる。能力の高い職員が多く、評価の意義を理解し、サービス見直しの良い機会としてとらえ、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催している。地域包括支援センターからの出席も得て、感染症から、成年後見制度まで幅広い内容について話し合い、会議での意見を活かしたサービスを行うよう努めている。	○	2ヶ月に1回を目標に開催することに加え、家族参加の仕組み作りを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを通して、市と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪する家族には直接報告を行っている。また、来訪することが難しい家族には、事業所便り、各種行事案内、電話連絡等で密に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情については、苦情BOXの設置、ポスター掲示等により、管理者や職員、外部者へ表出する仕組みについて周知を図っている。また、事業所の運営規定・重要事項説明書にも外部第三者委員の氏名を明記し、事業所内では対策委員会も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員異動によるリスクをよく理解しており、異動は必要最小限に留めている。職員が退職する場合は、「お別れ会」等にてスムーズな交代できる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修参加は、特定の職員に偏らないよう配慮している。連絡会の研修も大いに利用し、スタッフ会議で報告、検討を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の見学を受け入れたり、新人研修等の交流会を利用して親交を深めているが、相互訪問をするまでには至っていない。	○	市内だけでなく、周辺地域の同業者も視野に入れて、相互訪問等の活動を行うよう期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院している利用予定者の病院を訪問したり、在宅の利用予定者には自宅訪問をして本人を理解するよう努めている。その上で、事業所の見学や、ショートステイ等を通じて、なじみでの利用開始となるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で、まんべんなく喜怒哀楽を表わせる雰囲気にしている。不安を抱えている利用者の思いを共感し、丁寧な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや日々の申し送り等で、一人ひとりの好みや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者と家族の希望を踏まえスタッフ会議で検討し、医師の助言も得た上で、介護支援専門員が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定められた期間で見直しを行うとともに、状態の変化に応じた見直しを逐次行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の冠婚葬祭は、利用者が家族と、意思の疎通を図る良い機会ととらえ、参加する時の送迎を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人である医療機関の定期往診に加え、歯科の訪問診療を受けることも可能である。本人、家族と相談の上、適切な健康管理と受診支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を整え、家族の意向に基づいたケアも行われている。重度化や終末期の対応については、医師との連携が不可欠であるが、協力医療機関の理解もあり、安心できる体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけることのないよう、一人ひとり丁寧に対応している。記録の管理も適切であり、自分の記録を知りたがる利用者にも、納得を得られるような対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めない支援を実践しており、そのときの本人の気持ちを尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜は併設している事業所から運ばれるが、利用者それぞれの好みの物は事業所の厨房で調理している。後片付けは、奥と手前に利用者が立ち、中に、さりげなく職員が入って手助けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や、入浴の時間を利用者の希望で決めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	字が得意な利用者には習字をしてもらう等、一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の催しやドライブなど、希望を聞いて出かけられるよう用意をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアの開閉時に耳障りにならない程度の鈴が鳴り、利用者の出入りを確認している。防犯午後8時～午前7時は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーを設置しており、地域的の消防・警察・自衛隊との連携体制が整っている。定期的に避難訓練も行われており、母体施設とトータルで災害対策が取られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の生活アセスメントシートには、食事摂取量や水分摂取量、排泄、バイタルチェック、生活状況等が記入され、日々の健康管理に万全の体制を取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく、たっぷりしたスペースに、利用者と職員の協働作品が飾られている。休憩用の長椅子やテレビ前にはゆったり画面を見れるように椅子を配置し、畳敷きの部分には、和のしつらえがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室に洗面台と物入れを設置している。多くの居室が共用スペースの居間に続いており、戸は開かれた部屋が多い。また、事業所からのアドバイスで使い慣れたものが運び込まれている。		

※  は、重点項目。